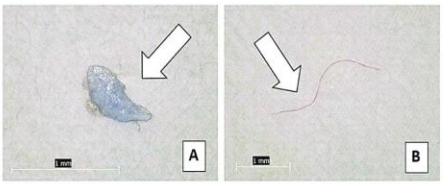
＜新聞記事から考えよう＞180903

微小プラ、世界の水道水に



水道水から検出された粒子状（左）と繊維状のマイクロプラスチック（米ミネソタ大提供）

水道水からのマイクロプラスチック検出状況

	1リットル当たりの最多検出数
米　国	60.9個
レバノン	23.3
インド	20.0
英　国	13.0
ウガンダ	12.7
スロバキア	10.9
インドネシア	10.8

微小プラ、世界の水道水に

米国ビール 食塩からも 汚染拡大「大きな懸念」

世界13カ国の水道水のほか欧米やアジア産の食塩、米国産のビールに、地球規模の汚染が問題になっている微小な「マイクロプラスチック」が広く含まれていることを、米ミネソタ大などの研究グループが2日までに突き止めた。水道水の検出率は81%と高く、ほとんどは繊維状で繊維製品由来とみられる。日本の水道水は調査していない。

Q マイクロプラスチック　大きさが5ミリ以下の微小なプラスチック。ごみとして海に流れ込んだ包装容器などのプラスチック製品が、壊れて細かくなるなどして発生する。洗顔料に使われるマイクロビーズや、化学繊維のくずもある。環境中の有害化学物質を吸着する性質があり、誤飲した鳥や魚などへの影響が懸念される。東京農工大の調査では、東京湾で採取したカタクチイワシの8割近くから検出。海外では市販のムール貝からも見つかるなど、食品汚染への懸念が高まっている。

マイクロプラスチックが人間の健康に与える影響は分かっていないが、研究グループは「日常生活で避けられない水道水の汚染が世界に広がっていることは大きな懸念材料だ」と警告している。

米国や英国、キューバ、インドなど14カ国で集めた水道水159サンプルを分析した。イタリアを除く13カ国でマイクロプラスチックが見つかった。米国のサンプルからは最多となる1リットル中約60個を検出。インドやレバノンも多かった。形状は98%が繊維状で平均の長さは0・96ミリ。0・10ミリのものもあり、フィルターで完全に除去するのは難しいとみられる。ほかに小さな破片やフィルム状のものもあった。

欧州、アジア、米国などの産地表示がある市販の食塩12種と、米国で醸造されたビール12種の全てからもマイクロプラスチックを検出。米国のボトル入りの水3サンプルにも含まれていた。

米国人の標準的な消費量に基づくと、水道水と食塩、ビールから年間5800個のマイクロプラスチックを摂取する計算になる。水道水由来が全体の88%を占めた。

汚染がどう広がったかは明確ではないが、繊維状のものは化学繊維製の衣服から洗濯などを通じて大気中に飛散した可能性も指摘されている。

グループのマリー・コース博士は「人が口にするもののマイクロプラスチック汚染が深刻化している。プラスチックに含まれたり吸着したりした有害な化学物質が人体に与える影響などを詳しく調べる必要がある」とし、使い捨てプラスチック製品の削減が重要だと指摘した。

マイクロプラスチックはプラスチックごみなどが壊れてできる直径5ミリ以下のもので、海洋汚染が問題になっている。

（佐賀新聞 2018.9.3 付）

◎記事から読み取ろう

○マイクロプラスチックの調査についてまとめよう。

・調査したのはどこの研究グループですか。

・調査したのは何カ国にわたっていますか。

○調査結果についてまとめよう。

・水道水の検出結果はどうなっていますか。

・食塩とビールからの検出結果はどうなっていますか。

・マイクロプラスチックはどんな形状ですか。

・汚染が広がった経路はどのように考えられていますか。

広げよう・深めよう

○マイクロプラスチック汚染について、詳しく調べてみよう。

◎自分の考えをまとめよう

＊友だちと意見交換したり、家族と話し合ったりしよう

○調べたことをもとに、自分の意見をまとめて発表しよう。